

ビジネスウエアこそ基本

エレガントな野獣と化して

ガエターノ・アロイージオ氏の名品



「ガエターノ・アロイージオ」の
スーツ

スーツは自身で2年前に仕立てたグレイフランネルのストライプ柄。ジャケットの右側のダブルポケットは彼のオリジナルだ。他にも見えない箇所に機能的工夫が満載されている。服が大好きでこの仕事を始めたという彼らしく、シンプルながら凝った装い。



「ローマの
工房」で
仕立てたネクタイ

濃いグレイのスーツによく映える、鮮やかな赤のネクタイ。生地とデザインを指定して、ローマのとある工房で作らせている。エレガントな白いシャツを着ることが多いので、はっきりした色のネクタイを差し色に使うことも多い。特に気分転換に赤は効果的だ。



「レイバン」の
サングラス

晴れた日は冬でも陽射しの強いローマでは、特に車を運転する時はサングラスが必需品。突飛なデザインを選ばないという、彼の一貫した哲学はサングラス選びにも垣間見える。また靴、時計など、アクセサリ系が、すべて黒で統一されている点にも注目。



「ボーム&
メルシエ」の
腕時計

余計なもの、特にアクセサリ類は一切身につけない主義。マフラーすら使わないというのだから、徹底している。時計とカフスのみが紳士が身につける最大限のアクセサリ、と断言するアロイージオ氏。全体のトーンによく馴染み邪魔をしないことが基本。



「ベルルッティ」の
プレートウ

ベルルッティで2年前にス・ミズーラしたプレートウ。ベルルッティの関係者が彼のもとでスーツを作っていることから、その誠実な人柄と仕事を知り、ここで靴を作るようになったという。黒の靴が多いが、その他はイングリッシュ・レッドの靴を好んで履くそう。

伝統の良さと最先端のエッジと

紳士の名品 100

エレガント、質実剛健、機能的、そしてモダンな感覚。現代の紳士が求める愛用品は、様々な要素を満たし、常に主人のアイデンティティを見事に表現する。紳士の名品とは、厳しい選択眼をくぐり抜け勝ち抜いたものだけが得る称号である。

Photograph/Shin Igarashi Photograph in Italy/LUCA NOSTRI Photograph & Text/Junichi Akabira
Photograph in London/Akemi Kurosaka Text/Iwao Yoshida Text in Italy/Naoko OKADA (m&m mediaservices)
Text in London/Irico Iriyama Styling/Saori Kajitani

「ガエターノ・アロイージオ」サルト&オーナー
ガエターノ・アロイージオ

1963年カラブリア生まれ。11歳でサルトの元、修業を始める。16歳でミラノのサルトリア・ボロネーゼ、20歳でローマのロツィで修業。22歳の若さで「金の鉄」賞受賞、ローマとパリにアトリエを構える若き気鋭のサルト。Via Giovanni Antonelli, 50197 Roma
☎/06・8081621 <http://www.gaetanoaloisio.it/>